

見附市図書館だより

万華鏡 第35号

平成26年7月18日発行

編集発行 見附市図書館 (TEL 62-3759)

指定管理者 NPO法人見附地域情報研究会



谷川俊太郎・八木忠栄 パネルトークを開催しました

6月21日(土)、アルカディア小ホールにて、日本を代表する詩人・谷川俊太郎さんと八木忠栄さん(見附市田井町出身)をお招きし、「詩と矢沢幸を語る」と題するパネルトークを開催しました。

お二人は、生誕70年を向かえる見附市出身の詩人・矢沢幸を「体は病気にとらわれているが、心はとらわれてはいない。この明るい前向きな詩はもっと多くの人に知られたらいい。」と語られました。

満席の聴衆は、作者自身による詩の朗読や質疑、サイン会も交え、楽しいひと時を過ごしました。

谷川俊太郎・八木忠栄 パネルトーク

感想をいただきました

アトムの子供

大崎 遼

「谷川俊太郎・八木忠栄パネルトーク」は客席が全て埋まり、大盛況のうちに終了した。来場者は自分の父母ぐらゐの50〜60代の人を中心に、20代後半の若い女性の姿も見受けられた。

僕は学生時代に性を大胆に且つ繊細に表現した谷川俊太郎さんの「ポルノバツハ」を読んで、教科書で習った詩に対するイメージがひっくり返ってしまった。しかも単純に言葉だけで書き表せない奥行きのようなものを感じたのを覚えている。

自ら作詞した『鉄腕アトム』のテーマ曲と共に登場した谷川さんは大変ユーモアのある方で100才の詩人柴田トヨさんやボーカロイドの初音ミクの事まで話題に出すなど、その視野の広さにも驚かされた。

「矢沢幸」については、自身の病気や恋愛に苦悩する日記は辛く暗い話題が多いが、それとは対照的に詩は前向きで明るく、強い。この点に二人が注目していた。

そして詩によく登場する「神様」という言葉。それは死を覚悟しなければならぬ苦悩というだけでなく、自分を励ます希望とも読み取ることができると。

僕は八木忠栄さんの詩の講座で詩を書いた時、矢沢幸のように自身の気持ちを詩に昇華することはできなかった。僕の詩は強張り、奥行きを持たず、あの独特の共感は得られなかった。

谷川さんは詩は絶対に誰にも書ける。書けないのは詩の観念に邪魔されているだけとおっしゃっていた。僕は今年の見附市文芸祭には、もう少し観念にとらわれない伸びやかな詩を書いて応募したいと思う。

きらきらした瞳に会えて

佐藤 真由美

郷土の詩人・矢沢幸の詩の魅力を谷川俊太郎氏と八木忠栄氏の二人が語る、という催しに、わくわくしながらアルカディアへ足を運んだ。鉄腕アトム(谷川氏の作詞)のテーマ曲にのって登壇されたお二人は、終始和やかで軽妙洒脱、ウィットに富んだトークを展開され、すっかり魅了されてしまった。

谷川氏は、矢沢の詩の発想の仕方に「親近感を覚える」また病床にいた矢沢の孤独感に「自分と共通する感じがする」として、彼の「一本のすじ雲」と氏の「飛行機雲」、「早春」と「春」などを比較、紹介してくださった。そして「病に体はとらわれていても精神は病んでいなかった。明るく前向きな気持ちを詩という形に表現できたのは彼の才覚」と述べられ、目を開かせられる思いがした。

病と闘い死と向き合いながら生命を燃焼させた矢沢が生み出した詩。一方、谷川氏の生み出す、どこか「自分」を突き抜けて宇宙の彼方から物事を澄んだ眼で見つめているような詩。両者の詩の底辺に共通する人生があるとは考えてもみなかった。谷川氏の指摘に、それぞれを再読したいと強く感じた。

トークの終盤、谷川氏の幅広いお仕事の話や朗読なども披露された。きらきらした瞳の輝きや、質問に対する的確で真摯な返答ぶりには、本当に感服してしまふ。

「なんでもないことも、おもしろい。なんでもないことも、詩になる。でも、なんでもないことをみつけるには、ちゅーいびかいこころがある」「詩ってなんだろう」谷川俊太郎著 筑摩書房(きまつ)「ちゅーいびかいこころ」を持ち続けているから、あの瞳の輝きがあるのだろう。良い時間を持てたことに感謝したい。

新刊どっさり!!

夏休みは図書館へ



自由研究・工作コーナー



夏休みには、じっくり観察や研究、工作にチャレンジしましょう!!
役立つ本が満載です。

中学生向けコーナー



「見附の子どもの本 中学生向けリスト100」からライントノベルまで気になる本が勢ぞろい。

☆☆ インフォメーション ☆☆☆

☆書庫開放

日時 7月27日(日) 8月24日(日) 9月28日(日)
いずれも午前9時30分～午後4時

図書館2階にある書庫の文学書(一般)29,400冊を一般開放します。
その場(2階)で貸出も行いますので、ご利用ください。

☆映画鑑賞会

日時 7月27日(日) 上映作品 「野生の証明」

森村誠一のベストセラーを、高倉健と薬師丸ひろ子主演で映画化。記憶喪失の少女と元自衛隊員が、運命に操られるように巨大な陰謀に巻き込まれていく。

8月24日(日) 上映作品 「戦争と人間(第2部)」

五味川純平の大河小説「戦争と人間」の映画化第2部。昭和7年の上海事変から昭和12年の日中戦争勃発までの動乱期を生きた様々な愛を描く。出演芦田伸介、北大路欣也ほか。

9月28日(日) 上映作品 「わが母の記」

昭和の文豪・井上靖の自伝的小説を映画化。老いた母親との断絶を埋めようとする小説家の姿を映し、母の強い愛を描いていく。出演役所広司、樹木希林ほか。

いずれも、①午前9時30分②午後1時30分からの2回上映で、会場は2階視聴覚室です。
入場無料。事前申込も不要です。ぜひ、お越しください。
主催 見附シネマ倶楽部 見附市図書館

夏休みスペシャルイベント

いずれも申込は不要です。大人から子どもまでぜひどうぞ。

☆夏休みおはなしの旅

日時 8月7日(木) 午前10時から
会場 2階 視聴覚室
内容 絵本の読み聞かせ

「おはなしの旅」のみなさんが『りきしのほし』
『すいかのたね』などの絵本を読みます。

主催 おはなしの旅 見附市図書館



『りきしのほし』
加藤 休ミ/著 イースト・プレス
『すいかのたね』
さとう わきこ/さく・え 福音館書店

☆夏休みおはなし会

日時 8月19日(火) 午前10時から
会場 2階 視聴覚室
内容 ストーリーテリング(素ばなし)

「おむすびの会」のみなさんが『からかさ屋と雷さま』
『コヨーテとせみ』などのおはなしを語ります。

主催 おむすびの会 見附市図書館



☆とんことり読み聞かせスペシャル

日時 8月20日(水) 午前10時から
会場 2階 視聴覚室
内容 絵本の読み聞かせ

「とんことり」のみなさんが『キャラメルの木』
『お化けの真夏日』などの絵本を読みます。

主催 はじまりはじまり 見附市図書館



『キャラメルの木』
上条 さなえ/作、小泉 るみ子/絵 講談社
『お化けの真夏日』
川端 誠/作 BIL出版

☆手づくりランド ボランティア大募集!

日時 ①7月29日(火) ②7月30日(水) 各回とも午後1時~3時30分
会場 2階 ワークルーム
定員 各回とも5名程度(中学生以上どなたでも)
申込 7月27日(日)までに電話(62-3759)またはカウンターまで

グループに分かれ、担当の小学生(6名)が紙を切ったり貼ったりして作品(ねこざかな)を完成できるようにお手伝いしていただきます。

* 図書館休館日 (毎週月曜日・第2金曜日)

7月28日(月)

8月4日(月) 8日(金) 11日(月) 18日(月) 25日(月)

9月1日(月) 8日(月) 12日(金) 22日(月) 29日(月)

* 学習コーナーの臨時休館(書庫開放のため、学習コーナーは利用できません)

7月27日(日) 8月24日(日) 9月28日(日)